

第31回市民ふれあいトークー地域力を活かすまちづくりー

日時 平成23年7月13日 18:30~20:00

場所 新田公民館

要約版

《市長》

それでは、改めまして皆さんこんばんは。誠に今日は夕方のご飯時のそれぞれ大変お忙しい時間帯に、市民ふれあいトークの方におこしいたきまして有難うございます。

この市民ふれあいトークは、各中学校区の公民館に私が伺いたしまして、その時々市の色々な最新の状況のご説明をして、皆様との間で、色々な意見交換、主に倉敷市の地域力を活かすまちづくり、どういう所にもっと力を入れたら、倉敷市がよくなっていくだろうかとか、そういうお話を皆さんから、伺いたり、意見交換ができればいいなあと思っているところでございます。最初、少し15分間ぐらい、私の方からお話を申し上げたいと思います。今日この半袖を着ております。このポロシャツは市の夏のスーパークールビズで、国の環境省から市役所の温度も高く設定しておりますけれども、ポロシャツの手のところに、がんばろう日本と日の丸と一緒に夏の市の制服の代わりということで、倉敷市の児島が繊維の町という事ですので、作りまして一着1500円で皆買いまして、その内2百何十円かが、被災地へ寄付をするということで1500円で作ってもらって市の皆で買ってあります。今までにすでに3000枚近く、皆大体2枚買う人もおりますので、買って結構被災地に、寄付もできるかなあと思っておりますが、これで参加をさせていただきますので、宜しく願いいたします。

さて、最初に、やはり皆様東日本の大震災の事が非常にご関心を持っていらっしゃると思います。まず、倉敷市からの現地への関係でございますけれども、3月11日に地震が起こりまして、必ずご救助に行かないといけないということで、早速準備を始めまして、最初に出ましたのが次の3月12日、翌朝の8時に倉敷市の消防局から、隊員と赤い車と7台の車と隊員が約30名近くでございますけれども、出発をいたしました。やっぱり水が無いということで水道局の部隊が出発をしまして、その後、医師・保健師でありますとか、それから下水道の調査部隊でありますとか、それからゴミの収集、災害瓦礫の撤去の為の部隊でありますとか、そういう職員が順番・交代で大体、1週間から2週間交代ぐらいで、現地にこれまで行ってあります。6月号の広報紙に詳しく載せたつもりなんですけれども、今日、お手元に持ってきてくださっている方が、1名いらっしゃってうれしかったです。

広報紙をちなみに、ご覧になった方はどのくらいいらっしゃいますでしょうか（挙手求める）。はい。大変有難うございます。なかなか、市がやっている支援の事がよくわからんというお話を頂いたもので、色々な写真とかを載せまして市の支援状況を載せました。

今までに現地に、職員が順番交代ですけれども約200名近く行きまして、その中でも一番大規模に展開いたしましたのは、宮城県の松島町に、こちらの町の災害瓦礫は、倉敷市が全部担当いたしました。5月末にすべて終わりました。こちらへ帰って来る事が出来ました。職員が72名ほど現地に行きまして、車もこちらからクレーンとか12台、向こうに運んで約2カ月がかりでやりましたけれども、何とか全部終わりました。東北の、同じ観光地ということですので、倉敷市も観光地の復興に力が貸せればいいなと思っております。

ちなみに、最後の1台はしばらく貸してくださいということで、1週間ほどお貸ししていたんですが、帰って来られた時に、倉敷市の観光を、松島町の職員さんにしていただい

たのですが、児島に行かれました時に、鷲羽山のレストハウスから倉敷市の松島があります。瀬戸大橋のところに松島があります。地図を見られまして、倉敷市に松島があるんですね、今後何らかの観光交流とかができたらいいですねと、松島町さんから、言って頂まして、観光交流でもというお話をしてみたいなあと思っていたのですが、援助したからそういうふうに申し上げたらまずいなあと思っていました。そうしたら松島町さんから、何か今後の交流をと言ってお下さし、何かできればいいなあと思っております。

もう一つ大きいものとしましては、ボランティアの皆さん達が、倉敷市民の皆さんが現地にこれまで約二百数十名、現地でボランティア活動に携わって頂いております。

今のところ4月の末からほぼ毎週バスを出して、そのバスは倉敷市社会福祉協議会、プラザが入っておりますが、倉敷市社会福祉協議会がボランティアの皆さんの受付をして、1つのバスに約15人から20人くらい市民の皆さんに乗っていただいて、倉敷市が岩手県の遠野市に拠点を置いております。公民館を向こうで借りて、ボランティアの方々が、寝泊りしていただいて、沿岸部の大船渡とか陸前高田で活動を1週間ほどして帰ってくる活動しております。現地の状況では、連休のときは非常にボランティアの方が大変いっぱい来てくださったんですが、連休過ぎてから非常にガクッと下がって難儀をしているというお話でありまして、倉敷市からはずっと継続して派遣できておりますので、大変喜ばれているところでございます。こういう活動は、皆さんの義援金の一部を使わせていただいております。今までに倉敷市に市民の皆様方から約1億7千万円近くの義援金を倉敷市にお預けを頂きました。その内のほとんどを現地へ送っております。被害状況に応じまして、各県の口座に振込みをすでにしておりまして、現地で市民の皆さんに届いているものも、かなりでているのではないかと思っております。ボランティアバスの経費については、市の予算から出している状況になっております。6月号の広報紙に、内容などについて随時お伝えしていきたいと思っております。この災害が起こりまして、何と言っても気になるのは、4月、5月ぐらいまでは私も現地の支援ばかり思っておりましたけれど、同時に倉敷市の防災体制の見直しというのが非常に重要なことになるわけでございます。今、倉敷市内の防災計画の見直しを行っているところです。最初にやっておりますのが、この新田の地域からは遠いんですが、沿岸部の津波の避難場所の見直しを今早急に進めているところでございます。東南海・南海地震がもし起こりましたら、今の想定では、倉敷市内で津波が来ますのは、約2時間半しましてから児島とか水島とか玉島の沿岸に来ます。淡路島の間あたりから抜けて、高知沖の所から津波が徐々に来まして細い所を抜けて少し増幅するみたいで、そこから何回も押し寄せてくる予定になっております。2時間半してから一番高い所で、3メートルぐらいの津波が来る予定になっておりますので、これに基づいて今防災計画ができていますのですが、今回のような津波が来ましたら、もしその2倍ぐらいだったらどうなるか、というような事もよく考えて津波の避難場所を見ないといけないということで、防災室の職員が全部沿岸部の今津波避難場所の小学校とか中学校に行きまして、ここだったら2倍だったら1階は浸かりますけれども、2階以上は大丈夫ですとか、例えばここの幼稚園だったら、もし2倍来ましたら、やっぱり非常に危ないので時間も2時間半ありますので、もっと高台のこっちに、逃げてもらうようにしましょうとか、そういう見直しを今、しております。大体今月の7月末ぐらいまでに、現地に行つての見直しのチェックをしまして、なるべく早急に、ここは見直しをしましょうとか、そういうことを中間報告で市民の皆さんに公表していこうと思っておりますので、今一番早急にやっ

いることをございます。

特に、ご勤務が水島コンビナートにご家族とか皆さん行かれている方もいらっしゃると思いますけれども、倉敷市の場合は液状化現象のことも考えていかないといけないと思っております。市内全域、倉敷市は元々、海だった所が多いわけでございまして、その中でも水島コンビナートの所は、何十年以内の埋め立てであり、そしてこの新田地区あたりは、確かもうすぐ開墾400年だと思わなすけれども、それだけ経ってれば、さすがに液状化はそう起らないんじゃないかとは思っているんですけれども、まず液状化が起りそうな所から、今見直し、それから対策をしている状況でございます。

また、防災の中間報告とかが出来ましたら、市民の皆様にお知らせをしていきたいと思っております。この新田中学校区の避難場所の耐震のことについて、申し上げたいと思っておりますが、一番大きな避難場所の新田中学校は、新しい建築基準よりも後に出来ておりますので、耐震化は大丈夫になってます。西小学校は、屋内体育場は新基準になっております、まず順番に市民の皆さんの避難場所になる屋内体育場から最初に耐震化をしております。それで教室棟は、調べました数値がある程度低いものから順番にやっております、西小学校も葦高小学校も、粒江小学校も最近、完成したと思わすけれども避難場所の屋内体育場の耐震化は完了しております。後、学校の校舎棟の耐震化をなるべく早急に、順番にやることになっていくように考えておりますのでそういう状況になっております。

この倉敷市内の倉敷地区の中で今年から秋にかけて、倉敷駅の周りの状況がずいぶん変わっていくと思わす。駅の北のチボリ公園が今年の冬、大体11月から12月だと思わすけれども……。倉敷市の部分だけ持ってきたわけでございますけれども、こちらが倉敷の駅になってございまして、そこからこちらの左右にヨーカドーさんと三井のアウトレットが来るということになってございます。市でクラブウさんに、全部商業施設になったら、駅の周りの倉敷市の北側の顔が少しでも緑のある場所をとということで、交渉しまして1ヘクタール売っていただきましたのが、この部分でございます。木が方々に生えているという感じですが、もっとちゃんとなります。今の青い部分がここです。こっちがヨーカドーさんでこっちがアウトレットになるんですけれども、市でこの1ヘクタールの公園と、同じくらいの面積の倉敷用水の所を緑道公園にいたしまして、合計約2ヘクタールの緑の部分設けることにいたしてございます。今、各地域の市の施設の大きなものを改修したり、新しく造る時には温暖化対策ということもあるんですけれども、緑の部分をかなり増やしていきたいと思っております、この公園の部分クラブウさんから譲っていただきました。この公園の全体の整備に、全体として約16億円譲っていただいた土地代も含めてかかるわけでございますけれども、色んな国からの補助金、緑化の補助金、色々組み合わせて、その内倉敷市の実質負担は、2億数千万円で済むようになるつもりでやっております。2ヘクタールで倉敷市自体の負担を比較的かなり少なく抑えて広い部分を造っていきたく思っております。真ん中にあります市の木でありますクスノキの保存木があるんですけれども、そこをヨーカドーさんで保存をしてくださいます、周りを木で囲んで憩いの場所にしてくださることになってございます。全体がこの周辺ですけれども、一部歩道がある所と無い所がありました。地元の皆さんからの要望もございまして、この事業者と交渉してこちらの中側で、元々歩道の所もあるんですけれども1周といいますか、往復で大体600メートル位になってございます。この1周が約1.4キロメートル位になってございます。合計すると大体2キロくらいのお散歩をしていただけるようなつくり、市の部分と事業者にも言わす、

していただけるようにやっております。一番我々が心配しておりますのが、交通渋滞のことです。寿町の踏切を県に言いまして、拡幅の工事をしてもらっています。駅の東の区画整理、皆様をお願いを、無理を申し上げまして、こちらの道を広く、駅から真っ直ぐ旧2号に通る所に、何とかこの開業までに間に合うようにと、工事をしていることとございます。しばらくは、混むと思います。混まないようにしてくださいということで、警察も含めてお願いをして対策をとっていただいているんですが、最初の何ヶ月かは、どうしても混むような施設にはなると思います。全く混まなかったらお客様も来なくて困りますけれども、混んでも困るんですけど、このお二方の話によりますと全国どこでも、最初のとにかく2週間ぐらいは、ものすごく混みますと。そこを通ったら段々落ち着くのが結構早くなるということを言われておまして、混む期間にも色んな警備員を配置をしてくださるようになっております。市のいい点といたしましては、倉敷市民の雇用をいっております。片方だけでも約2千名位の雇用が生まれてくると思います。既にそのアルバイトの方などの雇用の広告を打っていると伺っております。倉敷市としては混む所もあるんだけど、その分、倉敷市に経済効果や雇用が生まれるようにと、一生懸命事業者に言っているような状況でございます。

少し遠いんですけども、国体の時に船倉一曾原線が開通をいたしました。もうすぐ、ちょっと遠いんですけども中庄の所で、今通られましたら生坂一二日市線の鉄道の所がアンダーになっておりますけれど、そこがこの7月の末位に開通をする予定になっております。随分かかりましたけれど、中庄団地の前の所の道がもうすぐ通じるように。倉敷市の都市計画道路ですけれども、なってきたております。少しずつ混む道路もありますが、道が通じる所も出来ているという、大きく言いますとそういうような状況になってきております。私ばかりが話してはいけませんので、皆様方からの色々なご意見を頂ければ有り難いと思っております。どんなテーマでも結構でございます。そして地域のお話でも市全般にわたる事でも結構でございますので、宜しくお願ひしたいと思ひます。

《参加者Aさん》

2つあるんですが、1つは小学生の通学の区域の問題です。それとコミュニティ活動、班や地域活動が、ここのすぐ南の団地が、葦高に入る。以前の区割りからは粒江。同じ地域が新しく出来たところの中で学校、小学校の所で別れてしまうと、地域活動が非常にやりづらい。回覧物が学校から配るのも、行く家庭でかなりちがって来る。そう言った問題が出てくる。小学校区域の問題、きちっと区割りしていただかないと、地域活動がやりにくいような問題が出てきます。それを今後どうするのか。

もう1つは、私もコミュニティ活動をやる上で、小学校の電力不足の問題があります。普通の放送設備を使うときには、何ら問題は無いんですが、粒江学区では夏祭り、冬のふれあいフェアという事で、色んな電気設備を使うと電力不足になって、ブレーカーが落ちるという問題があります。そういった時に、やはり地域を非常に盛り上げるのはコミュニティ、地域全体でやる活動を少しでも一般の方が来て頂けるようにするには、電力の問題が起こらないようにしていただきたい。そうしたら、水道の問題も出てきましょうし、是非少し緩和していただくとか、色々アップしていただくとか、この2点をお願いします。

《市長》

まず、学区のお話を頂きました。新田中学校区、西小学校、葦高小学校、粒江ということになっており、今言われましたように、前は、このあたりの地域は、西小学校に行かれる、区域がはっきりしていたのですが、最近、言われますように、学校の区域と地域の区域とがごちゃごちゃになっていることだと思います。教育委員会の話を聞きますと、勿論基本的には決まっています。それぞれの親御さんからの申請で、特別な事情、子どもさんが帰ったら、預かり保育を何処にするとか、それからおじいちゃん、おばあちゃんとかがこっちの近くにいるから、その近くの小学校じゃないと困るとか、そればかりじゃなく、いじめとかがあった場合に、今の地域に通いたくない方もいらっしゃる、色々な理由があるんですけど、多くは、最初に言いました親御さんの仕事とか、子どもさんが帰ったときにどういう状況におかれるかということで、申請によって審査をしております、学区が違う所に行くということを確認することになっています。私も気になって聞いてみたのですが、以前からいらっしゃるお宅は、元々の学区に通ってくださる方が非常に多いのですが、新しく越してこられた方が、そうじゃない所に行かれる可能性、希望されるところが多い。それで、それなりに審査をしますと理由があるわけですし、それぞれちゃんと聞きまして該当するかどうかということをしているわけです。教育委員会として、元々の学区に行って頂きたいと強く思っております。そういう方向で親御さんとお話をしたいと基本的には思っております。ただ、どうしてもこういう理由でということ、増えてきているのが、大変申し訳ないと思っておりますが、なかなか市の基準でも絶対にこっちしかだめと親御さんの強い事情があったら言えないところが何とも難しい。そういう状況です。それから電力不足の件は、校長先生とかに聞いてみて、粒江小学校だけの問題なのか、それとも各小学校で契約のアンペアが全然足りない所が多いのかとか、よく聞いてみたいと思います。

《参加者Bさん》

西小学校と葦高小学校の絡みの件です。3年くらいになるんですけど西小学校区から80数名行っていたということで驚かしまして。卒業式とか入学式とか教育委員会の人に来ますよね、その後で話なんかしますと、大体市長さんが言われたようなことをおっしゃるんですよね。かなり重要な案件でないと変えられないと校長先生はおっしゃっているんです。だけど今年の6年生が卒業して、5月1日付けで75名、新田小から葦高小学校へ行っているんです。それは細かいおばあちゃんがどうのこうのとか言うんじゃなくて、真っ直ぐ行くとバイパスをスーッと行ったら歩道があっていいとか、そのくらいの理由のような感じなんですよね。西小の方へ行くと北へ行って2号線をくぐっていかないといけないから、トンネルみたいな所があって危険だからみたいなことを言って、それが通るんだったら、西小に行っている子は危険な目にあわせていいのか、ということになるでしょう。そういうくらいのレベルで、教育委員会が通しているのかという、そこを市長さんの力で、しっかり聞いていただきたいのと、今言われたように学区と地域と言うのが、密接に絡んでますから、地域活動をする上でも、こっちは葦高へ行きますと、親御さんはやっぱり小学校の絡みで地域がそっちへ行きやすいですよ。町内は新田へ町内会費を払っていると。だけど町内の活動というのは学校を通してきたりとか、そういうのがありますから。行政で地域とかみている場所があるわけでしょう。教育委員会だけじゃなくて。もっと横を睨んで頂かないと、教育委員会が勝手なことをして、地域活動がガタガタになるという

ことが、現実起きていると思ってるんです。これはちょっと人数が多すぎるんで、これはいくらなんでもひどすぎるんじゃないかと思うんです。教育委員会、教育長さんだけに言っても恐らくだめじゃないかと。それを市長さんのお力で、もう少し横を均すような対策と言うか、学区を守るんだと。あるいは、極端な話もうこの辺の区域は区画を変えて葦高学区にしようとか、その代わり町内もかわっていいですよ、位の権限を発動されるのか、町内の区域の分け方と学区の分け方は大体一緒でしょう今は。そこで地域活動を一生懸命やれ言うてね、特に葦高さんは一生懸命やられていて、西小はだめなんですけど。そういうことがあって、活性化のためにも、活性化をする部署もありますよね、そこら辺で西小学校なんかをもう少し指導していただきたいと思います。今は連合町内会が比較的動きが悪いんで、コミュニティ協議会とかを立ち上げておりますけれども、なかなか動きが取れないような格好ですから、もっと市としてコミュニティ活動を支援すると言う意味で、特に小学校などについては、バックアップして欲しいと思います。

《市長》

今日は各小学校区の幹部の方がいらっしゃいますので。一度教育長とお話した事があるんです。教育長は西小学校の校長先生でしたから、決して西小学校の子どもさんがどうあってもとは決して思っていないです。けれども、言われますように、バイパスより南側の新しく来られた親御さんが、どうしても葦高にと言う申請が多いと。去年よりは少し減っているとうかがっております。去年は80人は越えて、今言われました今年は70人台ですかね。75人ですかね。まだまだ多いわけでございますので、今言われたようにどっちか、学区か、そこまで皆が言われるんだったら、小学校の区域を変える。でも変えたら今度は、町内のお話しが出てくる。言われるように難しい問題で頭を悩ませております。ご存知のように葦高、大高、それから南も、分校をどんどん分けてますけれども、人数が非常に多いわけですので、市の観点から言えば適正な校区に通っていただきたいと言う思いはありまして、そういう立場で指導をしているんですけど、今日頂きましたお話は、よく今日お話をふまえてもう一回教育長と先行きについてお話をしたいと思います。

《参加者 C さん》

今の関連で、是非状況を知っていただきたいということで、西学区から葦高小学校へ何人か来られているでしょう、押し出し式にいっぱいいっぱいになって、あと2~3年の内にはあふれるという状況になって、その関係で今度、葦高学区から南小学区へ押し出し式に行かないといけない状況になんですね。そうしますと、今言われた通り、地域活動にかなり影響が出てきますので、そういう状況も是非知っていただきたい。教育委員会さんは、もうフリーに何処の学校区へ行ってもいいよというようなニュアンスで伝わってきますので、それでは困ると、強く言った事があるんですけど。やはり地域活動というのは、子どもたちは同じ学校に通って、同じ事を共有して、それで仲間意識なり地域のつながりが出来てきますので、隣の子どもが南小、こちらの子どもが葦高小では地域活動に影響が出てくると思います。そのことを考えていただきたいなど。

《市長》

はい、判りました。押し出し形式でいってしまってるんですね。

《参加者 D さん》

農業土木委員の〇〇といいます。西小学校の状況が、ひょうたんでいくとですね、ひょうたんの小さな所に西小学校があつて、ひょうたんの大きな所が新田なんです。それで、今、新田の地区の分譲住宅とか、人口がどんどん増えていて将来的には葦高・笹沖のように一つ小学校が出来ないと、もたないんじゃないかなと、これは何年先になるか判りませんが、今も昔もあつたと思うんですけど、西小学校を新田に移転したらどうかと言う夢のような話ですが。今は西小学校が一番北にあつて、地域的に通学距離がものすごく離れとんです。将来的に人口が増える場合に、新田だけで小学校のキャパが出来るくらいの人口が増えるかなと思うので、将来的なこととして検討して欲しいと思います。

《参加者 E さん》

今新田が話題になりましたが、最初は数人だったんですけど、その内に段々増えていって、あつという間に80人位になりまして、今葦高では色々な行事をやっておるんですが、今年から新田地域からも1つテントを作って、葦高の行事に参加してもらおうようにしてとんです。70人、80人位おりますから浦田の地区よりも人数が多くなっておるわけですから、新しい勢力なんです。それでコミュニティ、私、会費でもって地域の活動をやっておるんですが、まだ新田からは頂いてなくて、まあまあいらっしゃいいらっしゃいということでやつとるんですが、その内ちょっと考えんといかんかなあという感じです。今、分ける、西小に行く、葦高に行く、まあ、これは難しい。市長さんもなかなか答弁が難しいようですが、どうすればいいのかなあという感じですね。新田のこの地域からここまでは葦高とか、そうしますと新田の中で町内会の行事が難しいことになるだろうし、その辺が難しい。

《市長》

難しい。難しいばかり言って申し訳ないですが、とにかく地域の3小学校区の皆さんが、非常に大きな課題だと思っていられしやいますし、現実に影響が出ているという事がよく判りましたので、まずは教育委員会にそう簡単にどんどんバイパス越えるからはこっちにしてくださいとかで認めるとか、そう簡単に認めないように、中心部の大きな課題ですので、しっかり、すぐ解決できるかどうかは何とも申し上げられないんですけども、しっかり取り組みをしていきたいと思ひます。教育長ともよく話をいたします。

《参加者 F さん》

今の関連のことも先にちょっと触れておきます。私赤磐市に住んでいました。あちらは、東京の品川スタイルで、保護者の意思で選択できるというふうにあちらでは、教育行政がなっております。保護者がA小学校の学区だけでも、隣のB小学校に通わせたいということであれば、その保護者の意思が最優先されておりました。学区制の緩和と言うか、流動化と言うか、そう言うのがやられますし、保護者の立場からすると、うちの子をあそこの学校で学ばせたい、あそこの学校のあのインフラのある所でうちの子供を学ばせたいという保護者の意思、要望があると思ひます。私もかつて小学生の子どもがおりましたので、そういう保護者の立場の要望、考えもある。物理的に安全と言うこともあると思ひますけ

れども、あそこの学校でうちの子どもを学ばせたいという親御さんの思いも背景にあるということも汲み取っていただければと思います。

あと問題を2点、3点。まず、倉敷みらい公園の、そこに淡水湖があるんですけど、災害時の避難場所として、あそこを使うという話がありましたので、その時の設備、どういうふうな設備、テントであるとか仮設住宅であるとか、食料であるとか、人的スタッフ、どういうふうにして、あそこを避難場所として運用するのか、何処まで計画として今、考えられているのかということ、それと合わせて、市の防災計画が具体的に何時ごろどういう形で出るのか、沿岸部はさっき出たような、それ以外の所も含めて何時ごろどういう形で、それが災害時に関することです。

それから同じみらい公園に関することですが、あそこに屋外ステージが、使えることになっております。このインフラのことなんですけれど、折角色んなライブ活動できる構想で出来ているので、是非、音響設備だとか屋根が最低限、日比谷の音楽堂のようなスタイルになるのか、そこまで行かないまでも、ある程度の音楽的なパフォーマンスが出来るような電氣的な部分であるとか、音響設備が充分使えるようなインフラの整備を、今なら間に合うと思うんで、是非そういう形で、後付けで作るとなると相当大変だと思うんで、初期設計の段階でそういう音響設備等々を充分使えるようにしておいていただきたいと思います。

《市長》

ちょうどいいご質問を頂きましたので、この1ヘクタールの所の災害の対応のことについて、お話をしたいと思います。倉敷市の駅の周りには、大きな避難場所というのが、今の所ないわけでございます。それで、今回の商業施設にも電車とかで来られる方も非常に多くなると思います。避難場所という観点でも、芝生の部分や広い部分が必要だということで、まず、この土地を確保したということがあります。防災機能を備えるということで、災害の時に、神戸のときに一番言われたのですけれども、トイレが一番、災害の時、避難した時には、緊急なことになります。それで、ここにマンホールトイレと書かれてありますけれども、災害時になりましたら、下水が通っておりますので、下水の上に備えまして直接トイレが出来るようなマンホールトイレの場所を何ヶ所か設けるように、予めしております。それから防災のときに、炊き出しが出来るような施設も、何ヶ所か設置しております。それから、屋外ステージの所に、屋根を設けるのは難しいんですけど、電気の配線はしていこうと思っております。ここで簡単な屋外ステージのようなものも使って頂けるような、前のチボリ公園の時も、屋根のあるものがあつたんですけど、それに少し近いような形で使っていただけるようなものも入れておりまして、防災面と緑の面とを、大きくテーマにした公園としている所でございます。防災計画全体の見直しについては、国の計画の見直しが出来ないと、国が出来て、県が出来て、市が出来るというように、連動してますので、国がまだはっきり判らないので、何時出来るとも言われないうんです。判らないのでとりあえず、喫緊の津波の避難場所だけでも、最初にやろうという考えで今やっています。

《参加者 F さん》

一個だけ忘れていたんですけど、学校の電力のことですけれども、学校に勤めておりま

したので、現場の立場から言いますと、大きなイベント、地域の行事をする時には、それぞれの町内会が自家発電の発電機をそれぞれが用意して、大抵電灯であるとか、屋台の電源とか、色んなものを煮たり焼いたり食べたりするための電源は、学校のインフラとしての電力は、そこまでの対応ができないのと、人の問題があって、この施設をその時に誰が電気の管理をするのかということも物理的にあったりするし、屋外電源で自家発電で電源をまかなっていただくという事で、そういう風な取り組みをしておりました。参考までに。

《参加者Gさん》

先日テレビで見たんですけれども、須磨電力会社、この辺では中国電力、東京では東電とかあるんですけど、先日テレビでやったのはD P Sというんですかね、第2電力のことについてですね。一般市民は、何も出来ないらしいんですけれど、自治体とか企業とか大きいマンションとか、そういうところしか入らせてもらえないらしいんですけれど。それは市長の中では、どういうふうを意識されているのかということが一つと、これは電力は5%位、通常の電力より電気代が安いということで、各家庭でもマンションに入られている方は、かなりの人が入っておられて、この間、入った人が言っておられましたが、わずかの金額、月、一つの家庭で350円、年間で3,500円。それも10年すれば大きいですからね。そういうのに入って、実際にやっておられる人は非常に電気代が安い。元の電気はどういうふうになっているかと言うと、地熱とか産業廃棄物を燃やして、電力を作るとか、非常に有効にリサイクルで作られている電力なんで、もしそういうのを倉敷市ですれば、倉敷市で相当、どれだけ市が電力を使っているのか知りませんが、かなり削減、経費節減になるのではないかと思います。質問しました。

それともう一つ、僕が市民ふれあいトークへ出ると言ったら、要望されたんですけれども、今22ぐらい公民館がありますよね。先日美観地区で、ある商店街の人と話をしていたら、商店街の近くで、こういう市民ふれあいトークをやっとる記憶はないんですけども、市長に今日会えれば、それも要望、検討してみてくださいかと思いましたが、出来るかどうか知りませんが、美観地区には公民館がありますよね。倉敷公民館ですね。あそこでやれば勿論商店街の人はいけるし、美観地区の人はかなり参加できると思うんですよ。これが市としてだめとか、そういうのがあればしょうがないんですけれども、もし実現できれば、可能であれば市長にお願いしてくださいと要望を受けました。

それから、もう一個質問です。3番目が本当に言いたかった。新幹線に乗りまして、鹿児島。私、前に涉外をやっていた頃、車でよく鹿児島へ出張してたんですけれど、岡山県民と一緒に、鹿児島の人と言うのは非常に優しく、私がたまたま岡山ナンバーで走って、ガソリンを入れたんです。「お兄さん、お兄さん」その時私は若かったんですけど、「あんた岡山から来とんかね、車が岡山ナンバーじゃが」「そうです。」と言ったら「ガソリン入れてくれたからザボンあげるわ」と言って、大きなザボンをお土産に頂いたんです。初めてね、通りすがりです。そういうことをしてもらえば、非常にうれしいと思うんです。誰でもね。反対の立場になれば。今度、市長が、東京とか神戸で、営業本部長でやられるでしょう。それと同じ様に今度、鹿児島でやられるんですか、やられたんですか。

《市長》

今度、やります

《参加者Gさん》

その時に資産を有効に、そういう人情的なものもあるし、岡山倉敷のことを、宣伝を市長のことだからされると思うんですけども、是非、發揮していただいて、よろしく宣伝をしていただきたいと思います。

《市長》

まず最初に、電力のことについてお伺いした後、お話したいと思います。最初にありましたのは、電力の自由化ということだと思います。今、我々で言えば中国電力から電気を買っておりますのと、太陽光発電を付けておりましたら、自分で発電をしているわけですけども、これは、やっぱり国の電力の規制の緩和と言うのが、多分今後、緩和という方向になると思いますけれども、そうしましたら、例えば、水島コンビナートの地域の色んな企業さんで、電力を勿論自分で使われるわけですけども、その中で余った分を、例えばその社宅で使ったりとか、そういう方向になって来るんじゃないかと思うんですが、今の所は、規制が厳しい訳なんです。そういう状況の中で、市としては太陽光発電を非常に薦めておりまして、私が就任をいたしましてから、それ以前は大体1年間に補助件数が百何十ぐらいとかだったんですけども、今、毎年1,000件分補助の件数を出しております。一つに対して大体数十万円くらいの補助金ですけども、かなり増えてはきたんですけども、まだまだ数は必要ですけども。それと市の公共施設でも、新しいのを造るときには、必ず太陽光発電を入れるようにしてまして、少しでも自家発電できるようにしております。まだまだちょっと高いんですけども、値段もずいぶん下がってきているように思いますので、進めばいいなあと考えております。ちなみに、皆さんに聞いてみたいんですが、太陽光発電を付けていらっしゃる方は、有難うございます。補助金があったら応募していただけますように、段々増えてきていると思います。でも多分、割合から言ったら今手を上げていただいた方ぐらいが割合になってきているように思います。

それから、美観地区でのふれあいトークを考えていない訳ではないんですけど、今の所、中学校区の公民館でやっておりまして、倉敷公民館は、市の大きな公民館になるので、そこではまだちょっとやってないんですよ。ただ、今のようにご要望を頂いておりますので、今後、検討してみたいと思います。

それから、新幹線のことですね。今度の土日に鹿児島に行きまして、鹿児島の天文館という、岡山で言ったら天満屋さんみたいな老舗デパートがあるんですが、その広場で物産の、倉敷市のPRを初めてやります。これまで東京でやりまして去年は神戸でやりまして、今回は九州新幹線が通じましたので、鹿児島でやることにしまして、倉敷市も鹿児島市も中核市で非常に仲がいいので、鹿児島市長さんに、やるんだったら山形屋がいいよということで、紹介していただいてやります。色んな物産、桃も葡萄も、ジーンズも、i-MiVEも持って行きます。美観地区の色んな写真とか「めくりめくる倉敷」という漫画のポスターを使ってかなり倉敷の宣伝をしておりますので、そういうもののグッズを持って行ったりして、かなり宣伝をしていきたいと思っております。また、行きましてらホームページなどを通じまして、成果をご報告したいと思っております。

《参加者Hさん》

2つお願いします。災害のことです。高齢者とか障がい者の災害要援護者に対する避難

の検討、いろいろ心遣いをしていただきたいと思いますので、早く実地訓練をしていただくのが一番ありがたいので、ぜひ計画の中に入れていただきたいのが1つ。

もう一つは、笹沖ですが公共交通のバスの本数が少ない。バス停まで距離がありますし、本数も土日祭日になりますと、極端に本数が少ない。夜も8時過ぎで最終便がなくなりますので、お金があればタクシーが使えますが、高齢になりますと、生活も大変です。公共交通機関のこと、災害時の要援護者の訓練の実施、この2点をお願いいたします。

《市長》

最初の要援護者の方の避難ですけれども、特に災害の時に、地震の時とかに、非常に重要なことをごさいますて、津波の起こる、影響のある地域においては、2時間半ありますので、その中で地域の中での自主防災組織の助け合いによって、順次避難を手伝ったり、避難をしていただく事が一番望まれております。それでむしろ市で全員の方をお運びすると言うのはやはり難しいもので、地域の中での自主防災組織を使って、そこで声を掛け合って、助け合って避難をするという事が、一番現実的でございますが、今言われますように、練習をしておく事が非常に必要なことだと思っております。今までにはそういう訓練には参加がないわけですね。判りました。実地の訓練を全部いっぺんに出来るかどうかは判りませんが、して行く様にしたいと思います。

それから、バスの本数が少ないということですね。バス事業者に色んな補助金を出しまして、少しでもバスを減らさないように、両備さんと下電さんをお願いしたり、何とかバスをやめないようにと補助金を出したりしているんですけど、どうしても乗る人がいないので、運行ができないと言われるのが一番困るんです。市とバス事業者で、バスの路線の見直しと一緒に、もう一回やってるんです。縦のライン倉敷の駅からメイン通りの真っ直ぐ来る所は、何社もいっぱい通っております、そこから枝分かれするんですけど、お互いうまく便数を譲ってもらって、時間帯を分けて少しでも不便がないようにしてもらえないだろうかとか、採算が取れる所と取れない所を、市の補助金はこれからも出しますし、どちらかと言うと多くなっていく方向なんですけど、その中でも、補助金を少し多くする代わりにこういう路線にしてもらいたいとか、なるべくメイン道路ばかりバスが通って、あとはあまり行かないようにならないようにという交渉をバス事業者としたいなと思っております。なかなか厳しい状況なので、いい返事が出来なくて申し訳ないです。

《参加者Iさん》

ちょっと老人クラブの活動で、お願いしたいことがあるんです。倉敷地区の老人クラブで年1回生きがい発表会というのをステージでするんです。水島学区とか、色々な学区で1つずつしてるんですけど、倉敷学区は倉敷公民館で踊りを中心、福祉プラザでカラオケというふうにしてるんですが、倉敷公民館はステージは素晴らしいですが、駐車場が少ないので市長さんも一回見て欲しいと思うんですが、ステージで踊るんですけど観覧席がガラガラなんです。お互いに出る人が見るくらいで、と言うのは駐車場が少ないから、家族の人が来ても、老人、出る人を降ろして、そのまま帰らんと見てあげようもないんです。本当に倉敷公民館はどういう訳か、松とか格好いい建物、おしゃれな駐車場で台数が少ない。土日に行事をすれば、東小学校に何とか置かれるんですが、そういう訳に行かないので、どうしても土日避けるようになるんです。そこで提案で皆に言って言ってと頼まれ

たのでいいです。福祉プラザは非常に素敵で、そこはカラオケだけで、ステージの奥行きが全然ないんです。踊れないんです。ステージを見ていただいたら、横には広いんですけど、奥行きが全然ないので、フォークダンス、フラダンス、社交ダンス、日本舞踊、全然できません。振り付けを変えて、横へ横へ動くようなのしか出来ないんで、一回しただけで皆懲りて、もう全くだめと言うことで、倉敷公民館へまた戻ったんです。福祉プラザは駐車場が非常に広いので、お友達も呼べるし、家族も見てあげると思う。微笑ましい老人クラブの発表会は場所で往生してるんです。運動場ですとか、体育館ですのようなそう言うレクリエーションは困りませんけれども、ステージのことで大変困っております。皆さんに頼まれておりますので、よろしくお願ひします。

《市長》

福祉プラザの5階のステージをもっと広くするということですね。後ろは多分壁だったと思います。後ろには行けないとして、前は少しは行けそうですね。

《参加者Iさん》

前の列を調べましたら、椅子がだいぶ空いてまして、ステージとの間があるんです。そこをもっと広うしてもらえたら、いいのにと言うことで一回見て頂きたいと思います。よろしくお願ひします。

《市長》

いつも行事で行っておりますし、確かに前がちょっと開いておりますのも、勿論判ります。今後のことで前が詰められるのかということも、勿論検討してみますけれど、私が素人で考える限りは、ああいう建物の場合は、段差、ステージが高くて下が観客になりますでしょう。そうしたらステージの所から、落ちてくる人がいるかも知れない、例えばですね、その時に人がバツと前に来たとしても一番前の人、危なくないような基準がある様な気がするんです。狭い場合は、市民会館とかは、奥が非常に広いので、多分一番前、勿論前がぎりぎりまであるんですけど、ステージの基準があるかも知れないので、調べてみたいと思いますが、今、円形になっていると思いますが、もしそれをもうちょっと出すと言う事ですね。倉敷公民館の駐車場はなかなか難しいですから、もし、プラザが広くなったら老人クラブとしては、結構使っていただけそうなんですか。判りました。ちょっと検討してみます。何とも出来るかどうか判りませんが、確かに私もたまに狭いなと思うことがあるんです。5階の福祉プラザは、固定だったら多分回りの席を取らないといけなような感じはしますが、まず構造的に出来るかどうかを検討いたします。

《参加者Jさん》

今日のテーマが地域の活性化という事で、この活性化と強く結びつくのが、道路の問題だと思います。倉敷で非常に話題性のある道路が3本ある。その一本が北から花の街のあの道路、もう一本は、商工会議所の前、倉商の前の道路、3本目がこの近くを通っている西田矢柄線なんですよ。西田矢柄線は、東も西も道は切れてないです。途中しか、実際は矢柄から西田までは通じてないんです。聞くところによると、西の方は旭化成の所から向こうの買収が始まると聞いております。ところが東の方は、この向こうでもちょん切れて

る、しかも細い道が入っていると、帯江小学校の通学道路のはずですね。非常に危ない。車もすれ違えない。絶対事故が起こると思うんです。あの西田矢柄線の話が出てもう30年以上になるんですよ。まだ未だに出来てないですね。道が出来ることによって地域が非常に活性化される。葦高学区がいい例だと思いますね。あの道を何とか、伊東市長さんのご努力で、通していただきたいんです。実は、古城池線の所にナンバホームセンターがありますよね、あのホームセンターから今通じている藤原車輛までの道が、なかなか出来なかったんです。それを造ったのは、加藤六月さんですよ。ですから新田の人、この近辺の人は、あの道を加藤道路と呼んでいるんです。できたら、こちらから向こうを西田まですべて伊東道路になるんです。それで、加藤、伊東道路と言うのが末代まで名が残りますので、一つ御尽力いただいて、今すぐ出来なくても、その計画と言うか、経緯を地域の人に説明できるような、そういう行政であっていただきたいなと思います。放っておいたら、おそらく20年も出来ないと思います。地域の問題で、一つよろしくをお願いします。

《市長》

道路はですね、本当に大事なものであるというのは、おっしゃる通りでございます。それで西田矢柄線の西の方と東の方で、今言って頂きましたとおり、向こうの西の方はちょっとずつ進むようなご協力を頂きまして、方向になってきておりますので、旭化成のあっちの道の所から行ける様子ががんばりたいなと思っております。で、こっちの方は、県の部分がまずありまして、途中まで来ているのはよく見ていただいたら判ると思うんですけど、どういうふうになっているかと言いますと、こっちから見まして、こっちから行く所は、県でやる所になっております、実は。県道と市道の分断と言うのがありまして、その県の所が済んだら、次は市の所というふうになっております。それでうちとしましても、倉敷市としましても、勿論早く通じるようにしたいと思っておりますので、岡山県に、いつも、何回も言っております。で、そこが出来たら、向こうまで、市の部分が行けるので、何とかしてもらいたいと言っております。県としては、勿論努力すると言っているのですが、お金が無いとは片方で言われております。ですけれども市としては、市内の色々な重要な道路の中で、こちらの道路は今言われましたように、帯江小学校とかの部分もありますので早くしてもらいたい部分であると申し入れをしておりますので、今後なるべく早くしてもらえようようにしたいと思います。

《参加者 J さん》

それが実はですね、ある地元の県議員さんに、前回の選挙の時とにかくこの道を付けてくれるんだったら応援するということで、がんばりますと、そういう約束をもらっておりますので、恐らく、その県議さんから伊東市長さんへ話があるんじゃないかと思いません。その時は、ひとつよろしくをお願いします。

《市長》

あとで県議さんの名前を教えてください。

《参加者 J さん》

この地元の人です。一人しかいないですから。

《市長》

判りました。約束をしておられましたと聞いておりますが、状況はどうですかと、聞いてみたいと思います。判りました。本当に言われました通り、やっぱり大きな道路とか、倉敷駅周辺で言えば、久しぶりに倉敷市の大きな公園が出来るという事で、核になる所に公共の物ができると言うのは、活性化の一つの大きなポイントになればいいと思っておりますので、しっかりがんばっていきたいと思います。

《参加者Kさん》

地域力を活かすということで、若い人がここに住んで、子育てをして、いい暮らしができる事が大切なことだと思うんです。さっきの学区の話が出ているんですけど、それと同時に保育園だとか幼稚園の話があります。幼稚園にも関わっているんですけど、3年保育を、公立の幼稚園では是非やって欲しいという希望があります。保育園が足りないというのもある。でも今の公立の幼稚園はやろうと思えば施設はあるんですけども、結局人員が足らなくなるとか、延長保育で、非常に難しいんです。公立の延長保育というのは、病院に入院するとか、そういう事じゃないと、なかなか認められないとか、仕事で遅くなるから子どもを見てというのが、出来んとか、非常に厳しいので、幼稚園に入れてもお母さんが大変だというようなことで、公立の幼稚園が敬遠されるとか、というようなものもありますし、もう一つ学校に2学期制をやりましたよね、倉敷市は。唐突にポンとやられまして大体私らも、これについて、どういうふうな結果もそろそろ出ていると思うんですけども、うまいこと行っているのかどうかと思います。それと土日が休みなもんだから、親御さんも、子どもを土日休ませて、月曜日に行ったら、2日も子どもが休んだらだらけてしまいますから、大概いいことにならんと。前みたいに半ドンでやらせてもらえないかというのは意見としてはあります。それは自治体的に出来るかどうかは判りませんが、国の教育行政の兼ね合いもあるかもしれませんけれども、やろうと思えば出来る範囲もあるんじゃないかと思ったりするんです。非常に親御さんの希望も多いし、そういうところからいくと、子どもが育てやすい所が非常に生きてくると思うんです。学校にどう通わせて、どんなふうにするかは、非常に直接の毎日の毎日のことですし、お弁当どうするかとか、そういう話も含めて。だから子育てがしやすいような行政ということで言えば、土曜日に学校に行かして、幼稚園でも公立でももう少し長く見る。色んな高くなると思うんですけどお金の問題だと思いますけれども、何とかその箱物をいくらか減らしても、直接、そういう目に見えない様なことだけでも、皆が心が温まるような、そういう様な行政を是非やっていただきたいと思います。

《市長》

はい。貴重なご意見有難うございます。今日、全般的に教育の話が、学区とかも含めて非常に多く出ていると思います。今、言われました2期制の話ですね。2学期制が導入されてから、年数も経っておりますので、教育長もその成果についての見直しというか、評価をしないとイケないと言われておりますので、私も是非それをやっていただきたいと思っております。それから幼稚園の3年保育の面とか、なかなか市の職員の配置が難しいという所もあるんですが、一応徐々に増やしてきている所でありまして、要望いただい

る地区の所に直ぐにいけるかどうかは難しいんですが、一応増やしていきたいと思っております。土曜日に学校を開けるのは、なかなか難しいかなと思っております、一応国から土日は休みという事で来てまして、土曜日を開けることになると、全部市の負担になりますので、そこが大問題になるわけでございますけれども、放課後、子ども教室とか、地域で色んないきいき子ども支援の会とかして下さっております、私としても、今日、お話の根幹が子どもさん達がいかに地域で色んな活動をして、子どもさんが行かれれば親御さんも一緒に来てくださって、地域の繋がりが強くなるという事が、今日のお話、ご質問を頂いた中で根底を流れているんじゃないかと思いました。

勿論、学区のことだけでは無いですし、市の色んな施策の中で、皆さんからお預かりしてるお金を何処にかけていくかという順番があって、一つには耐震化を進めようと、勿論非常にお金がかかります。それから、皆さんからご要望を頂いた中で非常に高い順位だったのは、小学生の病院のお金を何とか公費で出してもらいたいということで、岡山市はやってないんですけれど、倉敷市は今年から小学校6年生まで、それを何とか実現する事が出来ました。それは何で実現できたかと言うと、やっぱり色んな他の所のものを節約したり、借金を減らして行っているから、出来ております。それからゴミにしても、可燃ごみは倉敷市は今の所無料でございますが、岡山市は有料です。これも倉敷市の市民の皆さんが、私の公約で言うておりますのは、ゴミを協力して減らしていただいている間は、有料化の検討はまだしなくていいと思っているんです。岡山市は、どうしても増えてしょうがないんで有料化するしかない。でも倉敷市は有料にしなくても、皆さんのご協力で減らしていただいているので。でも段々減り率はちょっと鈍ってきておりますが、でも元々から比べれば、ずいぶん減らしていただいているので、こういうことなどを子どもさんの医療費に向けたり、耐震の方に向けたりしております。ということで、なかなかいっぺんに全部は出来無い訳でございますが、私や職員たちがよく検討する時に、皆さんが何が重要だと思っているのかが、市政を進めていく上での大変重要なことで、心から感謝を申し上げます。

《参加者Lさん》

この広報紙を持ってまいりました。この中に第六次総合計画が発表されておりますが、これを隅々まで見たんですが、私は、人権学習の推進委員長です。人権に関する問題が、触れられてないような気がします。この辺を見てもらえればあるよと言われるのかどうか。

《市長》

はい、有ります。6月号の広報紙の中に、薄い分の中に挟みこみで入れたんで、最初の誰もが、その人らしさを尊重され、幸せに暮らしていく事ができている、その人らしさが尊重され、人権が守られる社会を作る。ここに書いてあります。

《参加者Mさん》

実状をお話したいと思います。市長さんに要望を申し上げるということではありません。

粒江小学校にはナイター施設があり、出来て25年位なります。そのおかげで、僕が住んでいるのは黒石という直ぐ南の100軒位の地区があるんですが、若者が集まりまして、ナイターでソフトボールをするという。キングスと言うチームを作って、いまだに続いて

おります。20何年ですね。それで、黒石の祭りを主催したりしてやってくれたりしているんです。地域力ということを知ったものですから。先ほど元先生がおっしゃっていたように、学区を自由化したら地域力は減ります。このことは、全く矛盾している。ですから、いま何が言いたいかというと、小学校のナイター施設は近所にずいぶん迷惑をかけているかも知れませんが、それがあつたおかげで、色んな所に勤めている若者が、一緒にソフトをする。その後でいっぱい飲むわけです。これがものすごい地域力です。そういう機会が段々減ってきておりますから、大事にしていかんやあいけんということで、小学校のナイター施設が有る学校がなんぼあるか知りませんが、粒江は教育長の地元であります。学区のことを色々言われましたけれども、これは下手に手をつけると大変なことになるんです。40年前、僕は西小学校の教員していました。その時、学校に700人いて新田は70人しかいなかった。その時分の粒江と西小の学区の境は変わっていません。葦高は出来ていませんでしたから、大高から分かれて新しい辺が出来たんですけど、学区を下手に触るとですね、大変なことになります。これだけは、はっきり言ったら市長も本気になっていると思いますけれど、霞ヶ丘小学校は600人いたんです。今年は36人です。完全複式の学校です。学校の規模は、色んな企業のこととか、地元のことで変わってきますから、ですから下手に触れんし、触るんだつたら、全市で再配分するくらいでないと、矛盾は解消しないと思いますね。ナイターのおかげで地域力がかなりまとまっているのを、紹介したいと思ひまして言ひました。

《市長》

はい。どうも有り難うございました。ナイターの設備のことなどですが、確かに、ナイターがすべての小学校にあるわけではないんです。それから、設置の周りの皆さんの同意も必要ですので、ご要望があつてということになるんですが、確かに、おっしゃっていただいているナイターがあるところは、夜色んな活動が活発にされているようにも思ひます。ナイターの充実なんかも、予算を見ながら図つていきたいと思ひてはおりますけれども、学区のお話は、以前からの人数の経緯、今後の将来の子どもさんの人数も見ながら、簡単じゃないことはよく判りましたので、吉田教育長とよく相談をしたいと思ひます。はい。ちょっと8時10分くらいになりましたので、今日はこのくらいで終了とさせていただきますと思ひます。皆さん、どうも有り難うございました。